



やまべ



令和6年  
2月1日発行  
第10号

## なわとび記録会を通して

校長 平澤 一彦

2月は旧暦で如月(きさらぎ)と呼ばれます。寒さで「更に重ねて着る」ことから「着更着(きさらぎ)」とする説もあり、寒さが一層厳しくなる季節ですが、先日は日本三名園の一つで梅の名所として知られる水戸市の偕楽園で、早咲きの品種が咲き始め、訪れた人たちを楽しませているというニュースがありました。寒さの中にも、春の訪れを感じています。

さて、先週の1月26日には、なわとび記録会が行われました。子どもたちは記録会に向け、体育の時間や中休みになわとびの練習に取り組んできました。学習カードに跳んだ回数を記録し「二重跳びが〇回跳べるようになった!」と、嬉しそうに報告してくれる子どももいました。また、全員で行う団体種目「8の字ジャンプ」には、中休みを利用して練習を重ねてきました。「がんばろう!」「エイエイオー!」の元気よかけ声で始まり、みんなでタイミングをとる「ハイ、ハイ、ハイ…」の声をかけ合いながら、記録を伸ばしてきました。縄に引っかかってしまった子には「ドンマイ!」、転んでしまった子には「大丈夫?」と、「8の字ジャンプ」に挑戦中の5分間は、ぼかぼか言葉があふれていました。練習のたびに、200回、250回と記録は伸びていきました。練習での最高記録は284回でした。子どもたちは、目標を300回として練習に励んできました。新記録を目指し緊張感のある中、なわとび記録会本番の記録は258回、惜しくも新記録とはなりませんでしたが、それでも練習で記録した284回は、子どもたちが作った記録に違いはありません。「悔しかった」という声も聞かれましたが、閉会式では「楽しかった」「がんばった」という感想とともに、キラキラした笑顔が印象的でした。心を一つに真剣に頑張る子どもたちの姿に胸を打たれた、すばらしいなわとび記録会になりました。記録会当日は、けがや体調不良で参加できなかった子もいましたが、目標を目指し一致団結した「8の字ジャンプ」の取り組みは、子どもたちをまた一つ大きく成長させてくれたようです。



今年度もあと2か月となり、6年生はあと32日で卒業式、1年生から5年生は34日登校すると今年度が修了します。今月は、先月行われた「学力診断のためのテスト」の結果をもとにした補充指導や、漢字カテスト・算数カテストによる基礎基本の定着に取り組んでいきます。引き続き、ご家庭や地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

